

中小企業あきた

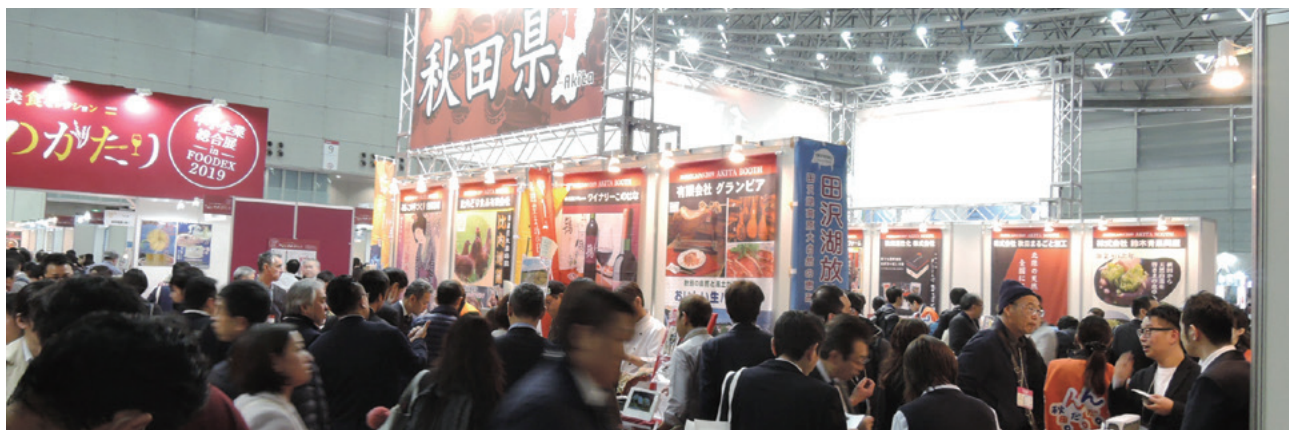
1	FOODEX JAPAN 2019.....	1
	～秋田県ブースへの出展事業者を支援～	
2	秋田県印刷工業組合理事長を訪問.....	2
	～今年度の活動方針をお聞きしました～	
3	日本銀行吉濱秋田支店長と県内景況について懇談.....	3
	～吉濱支店長の特別寄稿～	
○	景況レポート2月分.....	4
○	中小企業組合等支援施策情報.....	6
○	組合相談コーナー.....	6
○	話題の広場	
	中央会事業より.....	7
	支援団体活動レポート.....	7
	アラカルト.....	8
	インフォメーション.....	8



TOPICS 1 FOODEX JAPAN 2019

トピックス SPECIAL FEATURES

～秋田県ブースへの出展事業者を支援～



[秋田県ブース]

本会では、県内の食品事業者を対象に販路開拓やビジネスマッチングの機会を創出するための事業を実施しています。

3月5日(火)から8日(金)まで幕張メッセ(千葉県)で開催された日本最大の食品展示会「FOODEX JAPAN 2019」において秋田県ブースでの出展支援を行いました。

出展にあたって、本会が企画・運営全般を担い、秋田県、秋田県信用保証協会、秋田県信用組合、秋田銀行、秋田市、秋田商工会議所、秋田県商工会連合会、あきた食品振興プラザと合同で大規模な秋田県ブースを設置し、県内24の食品関連事業者が自社の販路拡大のため、汗を流しました。

期間中は、輸入・卸売業者、小売業者等のバイヤーなど国内外から前年比で11%上回る80,000余名が来場し、会場では熱を帯びた商談が繰り広げられました。

ブース内は、支援機関の職員による呼び込みや「なまはげ」が活躍したことで、溢れかえる

賑わいをみせ、ひっきりなしに人が訪れるなど、大盛況のうちに終わることができました。

出展事業者の声

秋田活性化株式会社(秋田市)

単体で出展した場合と比較してより多くのバイヤーの立ち寄りを感じられた。今回はスタッフ1名での出展だったため、ブース事務局の支援を受けられたことはとてもありがたかった。期間中は有力な商談先があったことから成約できるようしっかり対応していきたい。

有限会社鼎屋(男鹿市)

日常の営業活動では見つけれられないような商談先を見つけることができた。名刺配布は期待度の高い先を中心に行い、期間中は60件の商談があり、期間中、1件の成約があったが、フォローすべき先は多岐に渡ることから、12日から本格的にフォローしたい。今回の出展は成果が大きく、来年も出展できるように活動していきたい。



[ブースでのなまはげ]

株式会社鈴木水産(八峰町)

秋田県ブーススタッフによる積極的な呼び込みのおかげで、想定以上に来訪者が多かった。今回の出展では、こちらから積極的に名刺は配布せず、商談候補を厳選して対応した。結果として4日間で32件の商談があり、即日礼状を送付した。現在、バイヤーは来期冬商戦の商品を吟味しており、夏向けである本商品は時期を見計らって攻勢をかけていく予定である。また、スペインブースにて名刺交換した出展事業者より新商品のアイデアをいただくことができ、販路拡大のみならず商品開発についても有益な展示会であった。

有限会社みちのくアトリウムプラン(秋田市)

テンペを出展し、名刺交換枚数は2日間で12枚であった。テンペの認知度が低く、市場自体が成熟していない商品であるため、来場者からは「そもそも、どのような商品か」といった質問の声が多くあり、説明と試食のみで立ち去る来場

者が多かった。その一方、名刺交換した企業は、テンペという商品や味などを認知しており、見積及びサンプルの依頼が多数あったことから機会損失にならないよう早急に対応したい。



[商品説明]

みちこの手づくり 白神乃味(秋田市)

大規模な展示会への参加は初めてで、秋田市から採択された際は不安でいっぱいであった。しかし、ブラッシュアップ支援を受けたことで、パンフレット作成支援や会期中の流れ、商談会シートの作成など不安要素が取り除かれ、会期中はトラブルなく終えることができ、満足している。会期中は数社から見積依頼やサンプル発送の依頼があり、対応を行うことにしている。また、今後も商談や取引の可能性がありそのような企業に対しては、お礼状の送付を行う予定である。

出展した事業者は好感触を得ており、本会では引き続き、成約に向けたフォロー体制を充実していくこととしています。

TOPICS 2 秋田県印刷工業組合理事長を訪問

～今年度の活動方針をお聞きしました～

秋田県印刷工業組合(大門一平理事長)は、昭和32年6月設立に設立されました。組合員が100名を超えた時期もありましたが、現在は29名となっています。そこで、理事長に今年度の活動方針をお聞きしました。

昨年は、甲子園での金足農業高校の活躍が各方面に大きな影響を巻き起こし、全国に秋田県存在を十分にアピールしてくれました。人口減少トップの中から地元出身の選手だけで勝ち進む姿は、秋田県民の持つ能力の高さを示すだけでなく、一戦ごとに成長することで多くの国民に感動と希望を与えてくれました。

本年は新天皇の即位により元号が変わり、新しい時代の到来に大きな期待をしているものの1月から実施された用紙の値上げは、メーカー各社がエンドユーザーに周知することもなく行われており、製造調整に努めているものの品薄によって年度替わりの時期に影響を及ぼしております。同時に政府が推し進める「働き方改革」は、人手不足が続く中で中小零細企業に経費・時間・人員の負担を強いており、事業承継問題への対応がままならない状況において、大企業とのさらなる格差を生み出すことが懸念されます。

このような環境の中で、都道府県単位の力でできることには限りがあり、全国印刷工業組合連合会との連携は非常に重要性を増していると考えます。「ハッピー インダストリー」をテーマに掲げた様々なプログラムを活用することで、時代の流れに乗り遅れることなく体質の強化を進めていただき、新しい時代に必要とされる会社経営を目指していただきたいと考えております。また、昨年実施した印刷営業講座は受講者の全員から「よかった」との評価をいただきました。人材の育成は業界の発展に欠かせないものと位置づけ、より役に立つセミナー等の実施に向け準備を進めてまいります。組合員より一層のご理解とご参加をお願い申し上げます。



[秋田県印刷工業組合大門理事長]